

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391100100		
法人名	昌明福祉会		
事業所名	グループホーム敬親庵(椿)		
所在地	名古屋市港区寛政町7-18		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人理念の「大悲大慈」を基に、結の理念であった福祉は人、人は心、心とところを受け継ぎ敬親庵として一瞬一瞬を大切に  
 入居者様と向き合うことを大切に自分の人生観を養い人としての成長を職員一同目指している  
 入居者様の個々のレベルに応じて 介助 関わり 声掛け を続ける中で状況の変化があっても馴染みのある環境慣れた場所、顔ぶれで安心して過ごす事が出来る介護技術、関わりも継続していきます  
 今後も明るさと笑顔あふれる居場所づくりに努めますをモットーに運営を心掛けていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action\\_kouhou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyouCd=2391100100-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2391100100-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月30日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービス、サービス付き高齢者住宅が併設された複合施設の中に事業所が位置していた。そこから100メートルほど先に、二階建て3ユニットの事業所として今年度5月に新築移転した。以前から良く出向いていたコンビニがすぐ近くにあり、閑静な住宅地に位置している。近くには、荒子川公園や大型ショッピングセンターなどがあり、日常の散歩や買い物など楽しみながら生活支援ができる環境にあるが、コロナ禍で外出は自粛している。今後、感染状況を見ながら希望に添った支援をしていく心積もりをしている。職員は、入居者が日々の暮らしの中で、「今～がしたい」という思いに応え、「できることは自分で」、「お互いに助け合っていくように」、「地域に出ていく」を心に刻み、いつまでも元気で生きいきと過ごせるように、入居者と向き合いケアに繋がれるように努めている。2階の仏壇がある広い交流スペースには喫茶スペースあり今後、事業所のイベントや地域交流、カフェなどの催しに活用していくことが期待される。入居者の作品や絵が程よく飾られ、落ち着いた雰囲気空間となっている。窓越しに外の景色が眺められるコーナーにソファが置かれ、腰掛けてテレビを見たり、食卓で新聞を読んだり、入居者同士でお喋りを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として「大慈大悲」とあるが仏教用語であり観念的で浸透はしていない。事業所としての理念は現在ないが介護保険の理念本人本位、自立支援、尊厳の保持をキーワードに職員には周知している	法人の理念「大慈大悲」を掲げ、必要に応じてかみ砕いて内容を伝えるようにしている。事業所独自の理念や目標は設定されていないが、「本人本位、自立支援、尊厳の保持」をキーワードにして、入居者にとってかけがえのない時間の過ごし方や支援の方法などを考え、職員一人ひとりが入居者との繋がりを大切にして本人本位のケアの実践に努めるようにしている。	事業所理念は事業所が大切にしている価値観や考え方を職員や家族、地域に周知し、事業所が目指しているものを共有して目的を実現するための手立てとなると考える。法人理念を基本にした事業所理念を職員会議等で検討して掲げ、全職員が同じ目標を目指しより良いケアに繋がられることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時からコロナ渦にありなかなか地域の交流は持っていないが、法人内のいきいき支援センターから相談が流れてきたり、ホーム周辺の掃除をする際に挨拶するなどしている	法人として町内会に加入し、地域情報を得ている。保育園の運動会や敬老会、中学校の運動会、荒子川公園のイベント、地域のボランティアの受け入れ等は新型コロナの感染防止のため交流を自粛している。新型コロナの感染状況を確認しながら、地域のラジオ体操や清掃など地域の一員としての関わりや実習生を受け入れるなどして地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度参加していた介護フェアの参加は中止となったがいきいき支援センターとの連携により認知症に関する個別相談がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状2ヶ月に一回の実施は継続出来ているがメンバーが定着する傾向にある。	コロナ禍で開催が難しい場合は書面開催とし、意見は文書で聴取している。入居者や家族、民生委員、老人会長、地域の有識者、いきいき支援センター職員の参加を得て、法人内の施設と合同で年6回実施している。活動報告の他に、身体拘束、感染予防、防災対策などの話題を取り入れ情報交換をしている。家族の参加は思わしくなく、議事録はファイリングして誰でも見られるよう玄関に置いてある。	運営推進会議に参加できなかった家族にも、事業所の運営やサービスの実際を知ってもらう機会として、案内や議事録を敬親庵のお便りなどに添えたり、予定を知らせるなどしてより多くの家族の参加が得られるよう事業所から積極的な発信の機会を作るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	引き続き運営推進会議にはいきいき支援センターの職員様に同席頂き行政とのつなぎ役として情報頂いている。また制度に関して電話で連絡確認し相談させて頂いている。	運営推進会議にいきいき支援センターの職員が参加し情報やアドバイスを頂いている。市の担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務などで出向き、サービスの内容を伝えたり困難事例や制度、法律に関する相談や情報を得たりして協力関係を深めている。市主催の研修にはオンラインを利用して積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはいわゆる定義された拘束に対しては0で進められている。身体拘束に関しては職員周知ファイルにていつでも確認できるようにし会議後に職員にテスト形式でリマインドするようにしている	身体拘束委員会を3か月に1回開催し、身体拘束をしないケアと言葉の拘束や心の拘束の排除に取り組んでいる。入居者一人ひとりの安全と拘束感のない生活が出来るよう心がけている。職員は年2回研修カリキュラムに合わせて研修し、学んだことをテストで確認したりして知識の定着に努めている。安全の確保のため離床センサーの使用や玄関とユニット入り口はオートロックにしているが、家族の同意を得ている。	コロナ禍によりユニット間の交流は踏み止まっているが、コロナの感染状況を確認しながら自由にユニット間の交流が出来るよう、徐々にロックを外すタイミングなどを検討していくことを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記身体拘束とセットで実施。またあざについてはあざが付きやすい方に関しては個別にあざ記録を取り原因の究明を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニットに利用中の利用者様がいる為都度職員に制度の説明をし実践的に職員の知識となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が原則対応し不明な点の無いようご説明しております。4月の料金改定に関してもここに周知し新たな料金表にサイン頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦にありご家族様には我慢の連続を敷いていますが物品の補充をお願いしたいなどにコミュニケーションをとり要望や不安を伺うようにしている	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアに繋げている。家族からは新型コロナの感染状況を確認しながら面会の形態を工夫して対応し、機会あるごとに意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望はサービスの向上や業務改善に役立っている。事業所独自のアンケートによる満足度調査や家族会については今後の課題となっている。意見箱を設置し意見を述べやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、リーダー会議、随時ケアカンファレンスを開き、管理者ケアマネ看護師を中心に意見の吸い上げを行っている。レクや行事などは職員の自発性を重視し固定化しないようにしている	日々の業務の中や申し送り時に積極的に聞くようにしている。月1回のユニット会議などで職員からの意見や提案を聞き、改善に向けて話し合い、運営に反映させている。年2回自己評価の機会と同時に書面での評価を行っている。職員との個別面談は随時行える体制を整え意見や要望が言いやすい関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業は月10時間以下を目標に設定し有給取得も順調に取得している 勤務表作成に関しても希望休を二日設定でき、急な職員の欠勤に対しても休日出勤とならないよう事務職で極力フォローしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に伴い介護福祉士取得を目標に順次研修参加を法人として勤務内で履修できる環境にある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に参加者と共に情報共有する また管理者としてカイゴリーダーズのコミュニティに参加し他の介護職と交流の場を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人本位を口酸っぱく伝え、本人がどう思っているのかを常に判断根拠の上位になるよう職員に伝えている また利用者様にとって話しやすい職員がおり担当者制で要望伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学、利用相談地が大事な期間と捉え丁寧で安心できる情報提供を心がけている。また利用時も現在は電話連絡が中心だが何かあれば細かく連絡するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査をケアマネ、介護職員と行う事で本人のニーズをしっかりと聞く機会を持ち利用に関してのイメージを伺っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強制している訳ではないがほとんどの利用者様がユニットで過ごすような空気が出来ており利用者様同士の会話も活発にある 職員も頼りになる職員や孫、同じお母さんなど職員でカラーが分かれば関係を気付いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在ご家族様がユニットに入る事を禁止しているためなかなかご家族様に生活の場面に加わっている事は出来ていないが病院受診などの際ホームの運営状況を伝えご協力いただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの手紙がこればただ渡すだけでなくどこから来たのか、どんな人かなど伺うことによりその人らしさの発見や記憶の深堀を出来るよう支援している	これまでの生活歴を把握したり、本人や家族から情報を得て、本人が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。新型コロナの感染対策をしながらタイミングを見計らい家族と法事や結婚式に参加したり手紙のやりとりなどの交流をしている。また、着慣れた和服で生活をされる方や携帯を所持している方もいる。洗濯物をたたむなどの家事仕事をしたり、趣味の編み物や新聞を読んで過ごしたり、今まで培った経験を楽しみながら日常に活かす支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体状況により寝る時間の多い方も見えるが、体操やおやつ時間など見計らい活気のある時間に一緒に時間を過ごせるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了となる事がほとんどのケースですがお亡くなりになられた際はご報告に来て下さり葬儀にも参列し感謝の言葉頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を口酸っぱく伝え、本人がどう思っているのかを常に判断根拠の上位になるよう職員に伝えている また信条等によりお肉を食べないなど独特の考え方にも寄り添い支援している	入居者と交わしたさりげない会話や表情などから読み取ったり、回想法を用いて話を促したりして日々のケアの中から感じ取ったことを記録し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族から情報を得たりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔話が出た時には話を深掘りし繋げている またご家族様にも訪問時に積極的に好きな食べ物など聞いて情報把握に努めている 周辺地域に住んでいた方が多い為地元の話で花が咲く事も多い		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ日常生活動作の中で動作確認しながら体調の変化や精神状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議、リーダー会議、随時ケアカンファレンスを開き、管理者ケアマネ看護師を中心に意見の吸い上げを行っている。レクや行事などは職員の自発性を重視し固定化しないようにしている	日常の様子や身体状況の変化の記録を基に達成状況を毎月モニタリングしている。ケア会議では管理者、ケアマネジャー、看護師を中心に3か月ごとに話し合い、内容や目標は職員間で共有しながら実践し、6か月ごとに介護計画の見直しを行っている。ユニット会議では日常のケアから得た情報や課題について協議し、医師や看護師などの意見と、入居者や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時ケアマネユニットリーダー看護師を中心にユニットを巡回し気づきの吸い上げをしている またユニット会議や通常の業務中に健康状態や支援方法などの検討をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人として介護保険メニューの一通りのサービスを有しており連携しながら適切なサービス提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりは法人の礎が宗教法人であることもあり地元の檀家様との関係があり法人に対して非常に協力的である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通われていた病院との連携も大切にしながら、法人内診療所医師とも密に連携し基本的な健康管理、早期の異常発見に取り組んでいる	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。内科は月2回、法人の内科医師による往診がある。歯科は週1回、必要に応じて受診できる。事業所の看護師とも連携を取り健康管理に努めている。健康状態に変化があった時は、24時間対応で医師や看護師と連絡を取り、速やかで適切な医療提供に努めている。専門科については家族の協力により受診を依頼している。受診後は看護師に状況報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日5日間出勤がある為他のGHIに比べ連携は非常に密であると考え 常時ホーム内を巡回し利用者様からの健康上の相談、体調観察できる体制である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合ホームからも看護師より情報提供書提出し既往歴、生活上の留意点最大限配慮して頂けるよう取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護経験の浅い職員が多くまだ恐怖感があり看取りに関してケアの方針を立てるのに四苦八苦であるがご家族様本人の意向、健康状態に配慮し随時ケアの方針を出している	入居時に重度化した場合や終末期についての説明をしている。重度化する可能性がある場合には、早めに家族と主治医、看護師を交えて話し合いを重ね方針を確認し、可能な限り希望に添う支援をしている。今後、見取りの研修に積極的に参加し、職員間で共有し医療体制を整えていく方向にある。家族も共に看取る体制を整えている。	介護経験の浅い職員が多く、看取りに不安を抱えている。看取りに向けて事業所全体で取り組む体制を整え、事業所看護師の協力も得ながら看取りのマニュアルを活用し、職員に対して日々のケアの大切さを説明しながら看取りについての研修やメンタルケアの研修をしていく中で意識を高め、チームで支援に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って対応できるよう周知している また看護師によるオンコール体制、緊急時のバックアップを管理者、ユニットリーダーを中心にやっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施、また随時動画教材を用意し消火器や担架の使用法などを周知している	年2回火災、地震など災害発生時の避難訓練や昼間帯、夜間帯を想定した訓練を実施している。また、随時動画を視聴し消火器や担架の使用法などを研修している。訓練時以外に消防より設備や避難経路等について指導を受けている。備蓄品は水や食料品、おむつ、簡易トイレ等3日分を確保しリスト化されているが、全職員には保管場所の周知やリストの確認までには至っていない。	事業所が新築移転し独自の防災訓練を行う上で、消防署立会いの下避難訓練を実施し、評価を受けられることを願いたい。また、今後地域の事業所として還元できることや地域にお願いしたい事などについて話し合い、地域相互に安心、安全な暮らしが得られるよう願いたい。備蓄品のリストを利用して訓練時に確認するなどして全職員に備蓄品や保管場所を周知し、いざという時に役立てるよう望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方は統一するのではなく職員のいい個性が出るようある程度幅を持たせ、不適切介護については随時指導しながら介護に関わる姿勢を醸成している	「人生の先輩」を基本に、入居者一人ひとりの人格を尊重し、呼び名を統一して声掛けや目線に配慮した支援に心掛けている。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなど職員相互に注意しながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの方針についてまずは本人に聞いてみる事 認知症の状態にあっても返事がなくてもどこかに反応の兆候がないかを気にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ渦であり大まかなスケジュールはあるが、体調や気分に合わせて行動を支援している また業務の流れにあわされていないかを気にしながら支援の流れをリーダー中心に確認している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類がパターン化しないよう多めに衣類の持ち込みをお願いしている。また自分で選べる方はパイプハンガー使用し負担の無い程度で選ぶ機会を作るようにしている 訪問理美容様とも関係が出来ており楽しみにされている方多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューだけでなく個別に購入されたおかずを食べられる環境としており漬物や副食など持ち込みも多い。	業者の献立で季節の行事にも配慮された調理済の食材が届けられる。ご飯とお味噌汁は職員と共に準備し、個別に副菜を用意したり、ベランダで育てた野菜も食卓に彩として添えられている。準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。行事食や誕生日にはケーキやお菓子を用意したり、出前のお寿司やピザを頼んだりして楽しんでいる。また、月1回のおやつに手作りの芋きんとんやお好み焼き、たこ焼きなども楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クックチルを利用しているため栄養監修のもとメニューが決められている。また水分に関しては記録を取りある程度の水分は接種できるよう促し、提供機会を作っている また身体の状態や摂取状況の悪い方は個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導管理加算を取得中であり訪問歯科様の毎月の指導の下毎食後声掛けし歯磨きを促している。また身体の状態に寄って道具を使い分け負担のないよう実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	環境的にトイレがわかりやすい環境である為自発的なトイレ移動を自然に支援出来るようにしている また排泄記録を記録し排泄の声掛けに活用している	排泄表でパターンを把握し、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導を行っている。夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りと定期的な誘導を行っている。また、夜間のみポータブルを利用し安心できる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲料を工夫しみそ汁に関しては食材を調達し出来るだけ野菜を摂取しやすい具だくさんのものになっている また医師と連携し一律ではない個々に適した下剤の使用適切なタイミングを実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴間隔にて順序を決めているが入浴に関して当日の希望や体調考慮時間帯に日時をずらして気持ちよく入浴できるよう努力している	入浴は週2回夕食前の時間に実施している。希望があれば臨機応変に対応している。湯の清潔に留意し、ひとりずつお湯を入れ替えている。個浴と特殊浴槽を用意し個々の状態に合わせた入浴支援をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らって気持ちよく入浴できるよう支援をしている。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を利用して入浴が楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転は避けたいがどうしてもリズムがくるってしまう方もいる。また心身の状態により起きっぱなしでは非常に負担のかかる方もいる その方に応じて安息のタイミング設定し対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット職員が服薬内容をユニット内で確認できるようファイルを整備し服薬内容を確認できるように整備している また頓服薬や処方変更の際は看護師より周知し特に体調観察が必要な物に関しては現場職員に直接伝える様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活背景を把握しながらテレビ番組の選定や書籍、物品の調達をしている。またコロナ禍であるが月に一度はユニット内で行事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり自粛頂いているが現在は散歩、近所のコンビニへの買い物など徐々に緩和し外出支援している	入居者の体調を考慮しながらお天気の良い日には少人数で散歩に出掛けている。コロナ禍に於いて遠出の外出が制限される中、状況を見ながら感染対策をして紅葉を見に出掛けたり、近所のコンビニに買い物に出掛けるなど一人ひとりの希望に沿った支援をしている。今後、回想法を取り入れた外出や季節ごとの花見など新型コロナの感染状況を見ながら、希望に添う支援をしていく心積もりをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトの訪問販売や自販機の設置などコロナ渦であってもホーム内であっても使用できる環境がある。また新聞購読している購入代行を利用しチラシを見ながら本人のお気に入りの物品を購入できる環境でもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者様もオンラインの使い方を教えるなどして使用されるようになった。またホームの電話の取次もしており事務室で話される職員もいた。オンライン面会も整備済み。またご家族様に3か月に一度手紙を送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間で、テーブル席だけではなくソファも整備しゆったりできる様配慮している。光は調光ライト使用し朝夕の環境の変化や光の過敏症にもある程度は対応できる	居間は明るく風通しの良いゆったりとした大人の空間となっている。加湿器や空気清浄機を設置し温度や湿度を適宜に保ち、不快な音や光に配慮した環境を整えている。掃除も出来る方は職員と一緒にしている。余暇の時間には新聞や読書をしたり、入居者同士でおしゃべりや、ソファでテレビを見て寛いだりして自由な時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファ二か所のたまりを使い思い思いに過ごされている。またそれでも嫌がられる場合は廊下の突き当りにソファを設置するなど状況に応じて環境を整備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具含め基本全て持ち込みのものであり、認知症の程度によるが可能な限りお部屋に見えるよう荷物の量を多くして頂いている。また写真や仏壇、など飾りその人らしさを出している	各居室の壁の一面を和紙クロスで雰囲気を変えモダンな設えとしている。使い慣れた筆筒やテレビ、冷蔵庫など自宅で使用していたものを持ち込んだり、写真や位牌、手作り作品など好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。職員と一緒に掃除をして清潔で居心地の良い自分の部屋作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの位置関係をはじめとして自立を促し日常動作のアセスメントにより負担の無い歩行距離と動作によるリハビリを両立している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391100100		
法人名	昌明福祉会		
事業所名	グループホーム敬親庵(桜)		
所在地	名古屋市港区寛政町7-18		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人理念の「大悲大慈」を基に、結の理念であった福祉は人、人は心、心と心を受け継ぎ敬親庵として一瞬一瞬を大切に  
 入居者様と向き合うことを大切に自分の人生観を養い人としての成長を職員一同目指している  
 入居者様の個々のレベルに応じて 介助 関わり 声掛け を続ける中で状況の変化があっても馴染みのある環境慣れた場所、顔ぶれで安心して過ごす事が出来る介護技術、関わりも継続していきます  
 今後も明るさと笑顔あふれる居場所づくりに努めますをモットーに運営を心掛けていきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービス、サービス付き高齢者住宅が併設された複合施設の中に事業所が位置していた。そこから100メートルほど先に、二階建て3ユニットの事業所として今年度5月に新築移転した。以前から良く出向いていたコンビニがすぐ近くにあり、閑静な住宅地に位置している。近くには、荒子川公園や大型ショッピングセンターなどがあり、日常の散歩や買い物など楽しみながら生活支援ができる環境にあるが、コロナ禍で外出は自粛している。今後、感染状況を見ながら希望に添う支援をしていく心積もりをしている。職員は、入居者が日々の暮らしの中で、「今～がしたい」という思いに応え、「できることは自分で」、「お互いに助け合っていくように」、「地域に出ていく」を心に刻み、いつまでも元気で生きいきと過ごせるように、入居者と向き合いケアに繋がれるように努めている。2階の仏壇がある広い交流スペースには喫茶スペースあり今後、事業所のイベントや地域交流、カフェなどの催しに活用していくことが期待される。入居者の作品や絵が程よく飾られ、落ち着いた雰囲気空間となっている。窓越しに外の景色が眺められるコーナーにソファが置かれ、腰掛けてテレビを見たり、食卓で新聞を読んだり、入居者同士でお喋りを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごしている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月30日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として大乘大悲とあるが仏教用語であり観念的で浸透はしていない。 事業所としての理念は現在ないが介護保険の理念本人本位、自立支援、尊厳の保持をキーワードに職員には周知している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時からコロナ渦にありなかなか地域の交流は持てていないが、法人内のいきいき支援センターから相談が流れてきたり、ホーム周辺の掃除をする際に挨拶するなどしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度参加していた介護フェアの参加は中止となったがいきいき支援センターとの連携により認知症に関しての個別相談がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状2ヶ月に一回の実施は継続出来ているがメンバーが定着する傾向にある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	引き続き運営推進会議にはいきいき支援センターの職員様に同席頂き行政とのつなぎ役として情報頂いている。また制度に関して電話で連絡確認し相談させて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはいわゆる定義された拘束に対しては0で進められている。身体拘束に関しては職員周知ファイルにていつでも確認できるようにし会議後に職員にテスト形式でリマインドするようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記身体拘束とセットで実施。またあざについてはあざが付きやすい方に関しては個別にあざ記録を取り原因の究明を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニットに利用中の利用者様がいる為都度職員に制度の説明をし実践的に職員の知識となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が原則対応し不明な点の無いようご説明しております。4月の料金改定に関してもここに周知し新たな料金表にサイン頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦にありご家族様には我慢の連続を敷いていますが物品の補充をお願いしたいなどにコミュニケーションをとり要望や不安を伺うようにしている	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアに繋げている。家族からは新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら面会の形態を工夫して対応し、機会あるごとに意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望はサービスの向上	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、リーダー会議、随時ケアカンファレンスを開き、管理者ケアマネ看護師を中心に意見の吸い上げを行っている。レクや行事などは職員の自発性を重視し固定化しないようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業は月10時間以下を目標に設定し有給取得も順調に取得している 勤務表作成に関しても希望休を二日設定でき、急な職員の欠勤に対しても休日出勤とならないよう事務職で極力フォローしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に伴い介護福祉士取得を目標に順次研修参加を法人として勤務内で履修できる環境にある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に参加者と共に情報共有する また管理者としてカイゴリーダーズのコミュニティに参加し他の介護職と交流の場を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人本位を口酸っぱく伝え、本人がどう思っているかを常に判断根拠の上位になるよう職員に伝えている また利用者様にとって話しやすい職員がおり担当者制で要望伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学、利用相談地が大事な期間と捉え丁寧で安心できる情報提供を心がけている。また利用時も現在は電話連絡が中心だが何かあれば細かく連絡するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査をケアマネ、介護職員と行う事で本人のニーズをしっかりと聞く機会を持ち利用に関してのイメージを伺っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強制している訳ではないがほとんどの利用者様がユニットで過ごすような空気が出来ており利用者様同士の会話も活発にある また事業所連携により以前のサービス利用で知り合いであったケースも多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在ご家族様がユニットに入る事を禁止しているためなかなかご家族様に生活の場面に加わっている事は出来ていないが病院受診などの際ホームの運営状況を伝えご協力いただいている コロナ渦であっても窓越しやオンライン面会で関係をつないだ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に以前のサービスで知り合いであった方が多いユニットでありご家族様以外に利用者様同士の関係を大事にしている また入居相談に際しても上記の事意識し居住ユニットを選定している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特に以前のサービスで知り合いであった方が多いユニットでありご家族様以外に利用者様同士の関係を大事にしている また入居相談に際しても上記の事意識し居住ユニットを選定している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了となる事がほとんどのケースですがお亡くなりになられた際はご報告に来て下さります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を口酸っぱく伝え、本人がどう思っているのかを常に判断根拠の上位になるよう職員に伝えている また信条等によりお肉を食べないなど独特の考え方にも寄り添い支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当法人からの異動された方がほとんどで情報連携しスムーズな移行が出来ている またご家族さまとも関係を引き継ぐことができている。もともと地域の方が多く受診の際の移動でも話に花が咲きながしがられる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ日常生活動作の中で動作確認しながら体調の変化や精神状態の把握に努めている 特にシルバーカーでの歩行者が多くできるだけ歩いていくよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議、リーダー会議、随時ケアカンファレンスを開き、管理者ケアマネ看護師を中心に意見の吸い上げを行っている。レクや行事などは職員の自発性を重視し固定化しないようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時ケアマネユニットリーダー看護師を中心にユニットを巡回し気づきの吸い上げをしている またユニット会議や通常の業務中に健康状態や支援方法などの検討をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人として介護保険メニューの一通りのサービスを有しており連携しながら適切なサービス提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりは法人の礎が宗教法人であることもあり地元の檀家様との関係があり法人に対して非常に協力的である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通われていた病院との連携も大切にしながら、法人内診療所医師とも密に連携し基本的な健康管理、早期の異常発見に取り組んでいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日5日間出勤がある為他のGHIに比べ連携は非常に密であると考え 常時ホーム内を巡回し利用者様からの健康上の相談、体調観察できる体制である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合ホームからも看護師より情報提供書提出し既往歴、生活上の留意点最大限配慮して頂けるよう取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護経験の浅い職員が多くまだ恐怖感があり看取りに関してケアの方針を立てるのに四苦八苦であるがご家族様本人の意向、健康状態に配慮し随時ケアの方針を出している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って対応できるよう周知している また看護師によるオンコール体制、緊急時のバックアップを管理者、ユニットリーダーを中心にやっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施、また随時動画教材を用意し消火器や担架の使用法などを周知している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方は統一するのではなく職員のいい個性が出るようある程度幅を持たせ、不適切介護については随時指導しながら介護に関わる姿勢を醸成している おだやかな利用者様が多く利用者様の人柄に助けられている部分もある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの方針についてまずは本人に聞いてみる事 要望が強い利用者様も見えるが抑えるのではなくそれも自己表現と捉えながら管理職も含めてチームで対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢の方が多く集団での生活を好まれる方が多い。その中でも本人の希望にそぐわない事が出ていないか確認しながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類がパターン化しないよう多めに衣類の持ち込みをお願いしている。また自分で選べる方はパイプハンガー使用し負担の無い程度で選ぶ機会を作るようにしている 訪問理美容様とも関係が出来ており楽しみにされている方多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューだけでなく個別に購入されたおかずを食べられる環境としており漬物や副食など持ち込みも多い。食器拭きなど利用者様に声掛けながら共同で実施		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クックチルを利用しているため栄養監修のもとメニューが決められている。また水分に関しては記録を取りある程度の水分は接種できるよう促し、提供機会を作っている また身体の状態での摂取状況の悪い方は個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導管理加算を取得中であり訪問歯科様の毎月の指導の下毎食後声掛けし歯磨きを促している。また身体の状態に寄って道具を使い分け負担のないよう実施している 半年ほど全く応じない方もいたが関係作り習慣化した		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記録し排泄の声掛けに活用しているパットを自分で代えられ一日に多量に使用されている方もいるがご家族様と相談しご理解いただいている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲料を工夫しみそ汁に関しては食材を調達し出来るだけ野菜を摂取しやすい具だくさんのものに行っている また医師と連携し一律ではない個々に適した下剤の使用を実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴間隔にて順序を決めているが入浴に関して当日の希望や体調考慮時間帯に日時をずらして気持ちよく入浴できるよう努力している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファを使用し休まれる方多い また窓側の為転寝するのに良い環境である 夜間に関しては入眠障害ある方もいるが安易に睡眠薬を使わず職員の対応で眠るまで我慢強く対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット職員が服薬内容をユニット内で確認できるようファイルを整備し服薬内容を確認できるように整備している また頓服薬や処方変更の際は看護師より周知し特に体調観察が必要な物に関しては現場職員に直接伝える様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活背景を把握しながらテレビ番組の選定や書籍、物品の調達をしている。またコロナ渦であるが月に一度はユニット内で行事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦であり自粛頂いているが現在は散歩、近所のコンビニへの買い物など徐々に緩和し外出支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトの訪問販売や自販機の設置などコロナ渦であってもホーム内であっても使用できる環境はある。また購入代行を利用しチラシを見ながら本人のお気に入りの物品を購入できる環境でもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話の取次もしており事務室で話される職員もいた。オンライン面会も整備済 孫との関わりに涙する方もいる またご家族様に3か月に一度手紙を送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間で、テーブル席だけではなくソファも整備しゆったりできる様配慮している 光は調光ライト使用し朝夕の環境の変化や光の過敏症にもある程度は対応できる できるだけカーテンは開放し側道の歩行者とコミュニケーション取れるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファニカ所のたまりを使い思い思いに過ごされている またそれでも嫌がられる場合は居室で過ごして頂きドア開放して頂くなどして孤立に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具含め基本全て持ち込みのものであり、認知症の程度によるが可能な限りお部屋に見えるよう荷物の量を多くして頂いている また写真や仏壇、など飾りその人らしさを出している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの位置関係をはじめとして自立を促し日常動作のアセスメントにより負担の無い歩行距離と動作によるリハビリを両立している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100100		
法人名	昌明福祉会		
事業所名	グループホーム敬親庵(藤)		
所在地	名古屋市港区寛政町7-18		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391100100-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和3年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人理念の「大悲大慈」を基に、結の理念であった福祉は人、人は心、心とこころを受け継ぎ敬親庵として一瞬一瞬を大切に                  入居者様と向き合うことを大切に自分の人生観を養い人としての成長を職員一同目指している                  入居者様の個々のレベルに応じて 介助 関わり 声掛け を続ける中で状況の変化があっても馴染みのある環境慣れた場所、顔ぶれで安心して過ごす事が出来る介護技術、関わりも継続していきます                  今後も明るさと笑顔あふれる居場所づくりに努めますをモットーに運営を心掛けていきます。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービス、サービス付き高齢者住宅が併設された複合施設の中に事業所が位置していた。そこから100メートルほど先に、二階建て3ユニットの事業所として今年度5月に新築移転した。以前から良く出向いていたコンビニがすぐ近くにあり、閑静な住宅地に位置している。近くには、荒子川公園や大型ショッピングセンターなどがあり、日常の散歩や買い物など楽しみながら生活支援ができる環境にあるが、コロナ禍で外出は自粛している。今後、感染状況を見ながら希望に添う支援をしていく心積もりをしている。職員は、入居者が日々の暮らしの中で、「今~がしたい」という思いに応え、「できることは自分で」、「お互いに助け合っているように」、「地域に出る」を心に刻み、いつまでも元気で生きいきと過ごせるように、入居者と向き合いケアに繋がれるように努めている。2階の仏壇がある広い交流スペースには喫茶スペースあり今後、事業所のイベントや地域交流、カフェなどの催しに活用していくことが期待される。入居者の作品や絵が程よく飾られ、落ち着いた雰囲気空間となっている。窓越しに外の景色が眺められるコーナーにソファが置かれ、腰掛けてテレビを見たり、食卓で新聞を読んだり、入居者同士でお喋りを楽しんだりして、思い思いの時間を過ごしている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として大乘大悲とあるが仏教用語であり観念的で浸透はしていない。 事業所としての理念は現在ないが介護保険の理念本人本位、自立支援、尊厳の保持をキーワードに職員には周知している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時からコロナ渦にありなかなか地域の交流は持てていないが、法人内のいきいき支援センターから相談が流れてきたり、ホーム周辺の掃除をする際に挨拶するなどしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度参加していた介護フェアの参加は中止となったがいきいき支援センターとの連携により認知症に関しての個別相談がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状2ヶ月に一回の実施は継続出来ているがメンバーが定着する傾向にある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	引き続き運営推進会議にはいきいき支援センターの職員様に同席頂き行政とのつなぎ役として情報頂いている。また制度に関して電話で連絡確認し相談させて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはいわゆる定義された拘束に対しては0で進められている。身体拘束に関しては職員周知ファイルにていつでも確認できるようにし会議後に職員にテスト形式でリマインドするようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記身体拘束とセットで実施。またあざについてはあざが付きやすい方に関しては個別にあざ記録を取り原因の究明を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各ユニットに利用中の利用者様がいる為都度職員に制度の説明をし実践的に職員の知識となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が原則対応し不明な点の無いようご説明しております。4月の料金改定に関してもここに周知し新たな料金表にサイン頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦にありご家族様には我慢の連続を敷いていますが物品の補充をお願いしたいなどにコミュニケーションをとり要望や不安を伺うようにしている	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアに繋げている。家族からは新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら面会の形態を工夫して対応し、機会あるごとに意見や要望を聞くようにしている。出された意見や要望はサービスの向上	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、リーダー会議、随時ケアカンファレンスを開き、管理者ケアマネ看護師を中心に意見の吸い上げを行っている。レクや行事などは職員の自発性を重視し固定化しないようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業は月10時間以下を目標に設定し有給取得も順調に取得している 勤務表作成に関しても希望休を二日設定でき、急な職員の欠勤に対しても休日出勤とならないよう事務職で極力フォローしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に伴い介護福祉士取得を目標に順次研修参加を法人として勤務内で履修できる環境にある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に参加者と共に情報共有する また管理者としてカイゴリーダーズのコミュニティに参加し他の介護職と交流の場を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人本位を口酸っぱく伝え、本人がどう思っているのかを常に判断根拠の上位になるよう職員に伝えている また利用者様にとって話しやすい職員がおり担当者制で要望伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の見学、利用相談地が大事な期間と捉え丁寧で安心できる情報提供を心がけている。また利用時も現在は電話連絡が中心だが何かあれば細かく連絡するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査をケアマネ、介護職員と行う事で本人のニーズをしっかりと聞く機会を持ち利用に関してのイメージを伺っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	強制している訳ではないがほとんどの利用者様がユニットで過ごすような空気が出来ており利用者様同士の会話も活発にある 職員も頼りになる職員や孫、同じお母さんなど職員でカラーが分かれば関係を気付いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在ご家族様がユニットに入る事を禁止しているためなかなかご家族様に生活の場面に加わっている事は出来ていないが病院受診などの際ホームの運営状況を伝えご協力いただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの手紙がこればただ渡すだけでなくどこから来たのか、どんな人かなど伺うことによりその人らしさの発見や記憶の深堀を出来るよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体状況により寝る時間の多い方も見えるが、体操やおやつなどの時間など見計らい活気のある時間に一緒に時間を過ごせるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院にて契約終了となる事がほとんどのケースですがお亡くなりになられた際はご報告に来て下さり葬儀にも参列し感謝の言葉頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を口酸っぱく伝え、本人がどう思っているのかを常に判断根拠の上位になるよう職員に伝えている また信条等によりお肉を食べないなど独特の考え方にも寄り添い支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔話が出た時には話を深掘りし繋げている またご家族様にも訪問時に積極的に好きな食べ物など聞いて情報把握に努めている 周辺地域に住んでいた方が多い為地元の話で花が咲く事も多い		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ日常生活動作の中で動作確認しながら体調の変化や精神状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議、リーダー会議、随時ケアカンファレンスを開き、管理者ケアマネ看護師を中心に意見の吸い上げを行っている。レクや行事などは職員の自発性を重視し固定化しないようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時ケアマネユニットリーダー看護師を中心にユニットを巡回し気づきの吸い上げをしている またユニット会議や通常の業務中に健康状態や支援方法などの検討をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人として介護保険メニューの一通りのサービスを有しており連携しながら適切なサービス提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりは法人の礎が宗教法人であることもあり地元の檀家様との関係があり法人に対して非常に協力的である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通われていた病院との連携も大切にしながら、法人内診療所医師とも密に連携し基本的な健康管理、早期の異常発見に取り組んでいる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日5日間出勤がある為他のGHIに比べ連携は非常に密であると考え 常時ホーム内を巡回し利用者様からの健康上の相談、体調観察できる体制である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合ホームからも看護師より情報提供書提出し既往歴、生活上の留意点最大限配慮して頂けるよう取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護経験の浅い職員が多くまだ恐怖感があり看取りに関してケアの方針を立てるのに四苦八苦であるがご家族様本人の意向、健康状態に配慮し随時ケアの方針を出している ユニットでのご逝去一名経験できるという自信につながった		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルに沿って対応できるよう周知している また看護師によるオンコール体制、緊急時のバックアップを管理者、ユニットリーダーを中心にやっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施、また随時動画教材を用意し消火器や担架の使用法などを周知している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方は統一するのではなく職員のいい個性が出るようある程度幅を持たせ、不適切介護については随時指導しながら介護に関わる姿勢を醸成している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの方針についてまずは本人に聞いてみる事 認知症の状態にあっても返事がなくてもどこかに反応の兆候がないかを気にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ渦であり大まかなスケジュールはあるが、体調や気分に合わせて行動を支援している また業務の流れにあわされていないかを気にしながら支援の流れをリーダー中心に確認している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類がパターン化しないよう多めに衣類の持ち込みをお願いしている。また自分で選べる方はパイプハンガー使用し負担の無い程度で選ぶ機会を作るようにしている 訪問理美容様とも関係が出来ており楽しみにされている方多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューだけでなく個別に購入されたおかずを食べられる環境としており漬物や副食など持ち込みも多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クックチルを利用しているため栄養監修のもとメニューが決められている。また水分に関しては記録を取りある程度の水分は接種できるよう促し、提供機会を作っている また身体の状態での摂取状況の悪い方は個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理指導管理加算を取得中であり訪問歯科様の毎月の指導の下毎食後声掛けし歯磨きを促している。また身体の状態に寄って道具を使い分け負担のないよう実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	環境的にトイレがわかりやすい環境である為自発的なトイレ移動を自然に支援出来るようにしている また排泄記録を記録し排泄の声掛けに活用している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲料を工夫しみそ汁に関しては食材を調達し出来るだけ野菜を摂取しやすい具だくさんのものになっている また医師と連携し一律ではない個々に適した下剤の使用を実践している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴間隔にて順序を決めているが入浴に関して当日の希望や体調考慮時間帯に日時をずらして気持ちよく入浴できるよう努力している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転は避けたいがどうしてもリズムがくるってしまう方もいる。そういう方に対しては日中起きていなさいになるのではなく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット職員が服薬内容をユニット内で確認できるようファイルを整備し服薬内容を確認できるように整備している また頓服薬や処方変更の際は看護師より周知特に体調観察が必要な物に関しては現場職員に直接伝える様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活背景を把握しながらテレビ番組の選定や書籍、物品の調達をしている。またコロナ渦であるが月に一度はユニット内で行事を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦であり自粛頂いているが現在は散歩、近所のコンビニへの買い物など徐々に緩和し外出支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	窓からコンビニが見えるユニットでありちよつと行ってくるに応える体制にしている お金を所持している利用者様は少数であるが禁止はしていない また折衷案であるが金銭管理も実施している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者様もオンラインの使い方を教えるなどして使用されるようになった またホームの電話の取次もしており事務室で話される職員もいた。オンライン面会も整備済 またご家族様に3か月に一度手紙を送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした空間で、テーブル席だけではなくソファも整備しゆったりできる様配慮している 光は調光ライト使用し朝夕の環境の変化や光の過敏症にもある程度は対応できる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファ二か所のたまりを使い思い思いに過ごされている またそれでも嫌がられる場合は廊下の突き当りにソファを設置するなど状況に応じて環境を整備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具含め基本全て持ち込みのものであり、認知症の程度によるが可能な限りお部屋に見えるよう荷物の量を多くして頂いている また写真や仏壇、など飾りその人らしさを出している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの位置関係をはじめとして自立を促し日常動作のアセスメントにより負担の無い歩行距離と動作によるリハビリを両立している		